平成30年度第1回大阪ストーリープロジェクトワーキンググループ　議事概要

|  |
| --- |
| 日時：平成30年７月２日（月）１０：００～１２：１５  場所：大阪府咲洲庁舎30階　共用会議室  出席アドバイザー：小田切氏、栗本氏、清水氏 |

**〔平成29年度事業実施報告について〕**

⇒資料①により、事務局から説明

■栗本氏

○昨年度事業については、整備等の事業が完了しまだ期間が短いが、１年の取組みを終えての成果は？

（事務局）  
29年度は整備等のほとんどの事業が３月末に完了し、今後ＰＲしていくため、現時点では集客数が目に見えて増えたといった成果は示しにくい。ただ、例えば泉州サイクルルートなどはマスコミに多く取り上げられるなどの効果はあったという認識。

■清水氏

○泉州サイクルルートは反響もあるとのことで、今後の展開に期待するところだが、「サイクルルート」というと、整備された自転車専用道をイメージする可能性がある。安全性を確保する取組みや正確な案内をするよう、心がけていただきたい。

（事務局）  
海浜ルートは主に府が管理する道路だが、自転車レーンの整備が順次進められているところ。利用者の安全を考慮した案内については、実施団体に申し伝える。

**〔平成30年度申請事業について〕**

⇒資料②により、事務局から説明

■主な意見

泉州サイクルルート事業

○今回、和泉西国三十三ヶ所観音霊場を巡るコースを提案しているが、そこに行くとどう楽しめるのかといった、動機付けが見えない。

○昨年度制作したマップやアプリは、実際に利用する方が知りたい情報が不足しており、「ここをこう走ったらこう楽しめる」というストーリー感が必要。ユーザーの目線に立った情報の追加と、なぜ楽しいのかを情報提供するという視点にたち、内容拡充を進めなければならない。

○飲食店情報は、地元でしか味わえない店舗情報などを掲載すべき。割引よりも、魅力的なお店を知りたいニーズのほうが高い。

パブリックアート

○美術館単体での情報発信ではなく、ミュージアムタウンのエリアの位置づけを踏まえ、包括的な情報発信を行うべき。

○今年度事業は昨年度の取組みの拡充とのことなので、統一感を持たせるべき。

○アート制作物は、設置後の管理に手間がかかる。地域の人がどう活用していくかについても、今後の展開を踏まえ、事業者に提案させる必要がある。アートを作るというプロセスを重視してもらいたい。

○アート制作が観光誘客にどれほど寄与するのか、整理が必要ではないか。

楠木正成

○本事業の趣旨に一番馴染むストーリーだが、誘客への取組みには工夫が必要。ターゲットごとにアプローチが異なるので、その点を整理しながら取組みを進める必要がある。

○「楠木正成」のみに絞り込むと、ターゲット設定が狭くなるため、誘客を意識するなら、打ち出す魅力の範囲を広くすることも必要。

百舌鳥・古市古墳群

○世界遺産に認定されれば、自ずと訪問者は増加すると思うが、どう地元に経済効果を及ぼしていくかを検討する必要がある。そのために、既存店舗への立ち寄りや、新規店舗の参入を見据えた、周遊ルートの設定が必要。

○百舌鳥・古市古墳群全体として、どう足を運んでもらうのか。その動機付けとしての観光魅力の発信の工夫が必要。

**〔本事業の今後の展開について〕**※自由議論

■主な意見

＜ターゲットについて＞

○インバウンドが、民泊の規制に伴い減少している。今後どう推移するのかは不明瞭だが、ターゲティングの再整理が必要になる。

＜スキームの再検討案について＞

○申請ありきのストーリー構築ではなく、府としてテーマを設定するプッシュ型の展開は良い。現時点で、「食」と「美術」を検討しているとのことだが、食については、生産地だけに目を向けるのではなく、それを提供する飲食店にアプローチする方が実効性が高いのではないか。

○美術については、美術品や美術館を表層的に繋ぐことは可能だが、“大阪らしさ”“大阪にしかないもの”という視点での整理が難しい印象。

○スケジュールとしては、今年度は情報収集等を行う準備期間と位置づけ、次年度具体的な展開とすれば良いのではないか。

○本事業に１年間取り組んできたが、事業費の使途にハード整備が目立ち、他補助制度との類似がある。大阪ストーリープロジェクト事業なので、ストーリーの作りこみに予算をかけるべきではないか。

**〔今後のスケジュール〕**

⇒資料により事務局から説明

**〔閉会〕**